

# 徒手整復の適応と限界 第14報

## 肋骨6本と肩甲骨の多発骨折に対する 徒手整復術

南波利宗(清野鍼灸整骨院)

山田昌紀(清野鍼灸整骨院)

清野充典(清野鍼灸整骨院)

池内隆治(明治国際医療大学)

# 目的

- 柔道整復術は徒手で骨折を治療する伝統医療であり、接骨院に来院する骨折患者も多い。
- 多発骨折に対する徒手整復術を検討した論文は、過去に1題しか存在しない。
- 今回、多発骨折に対して、徒手整復術実施後良好な経過が得られたので報告する。

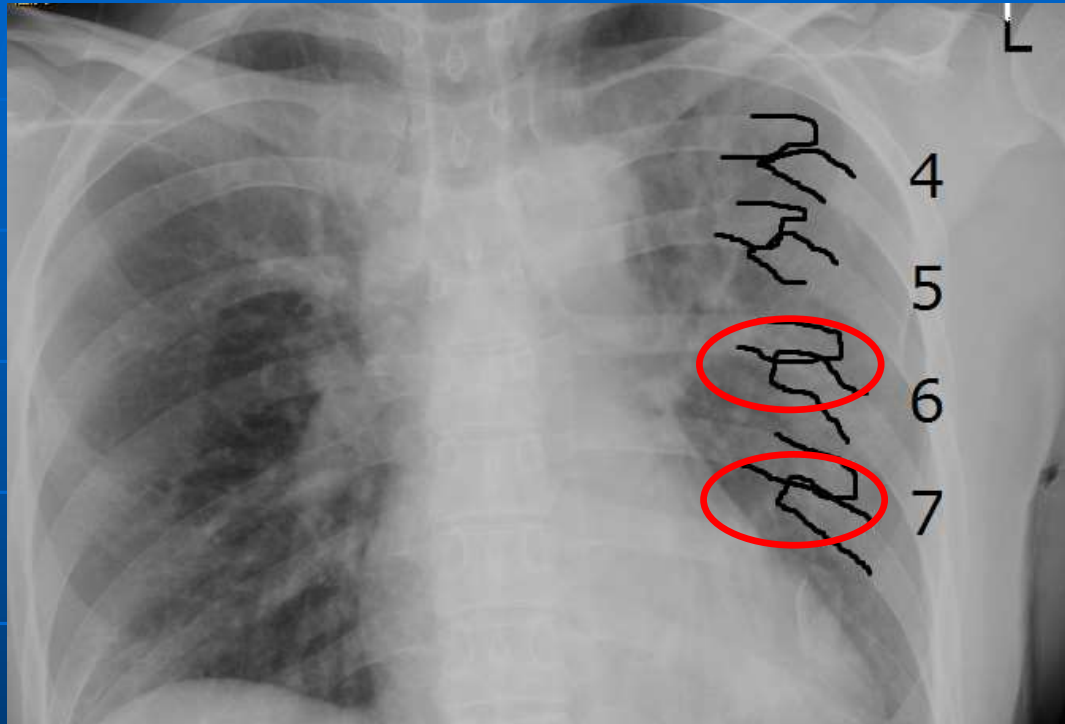
# 対象

- 患者:41歳女性
- 診断名:左第4～9肋骨転位性骨折  
左肩甲骨下角完全骨折
- 現病歴:X年7月14日、自転車で通勤中交通事故に遭い、搬送される。上記多発骨折、頭部・四肢挫創及び左血気胸と診断され、入院する。入院中、血気胸に対して胸腔ドレナージ、挫創部に対して創傷処置が行われる。

# 対象

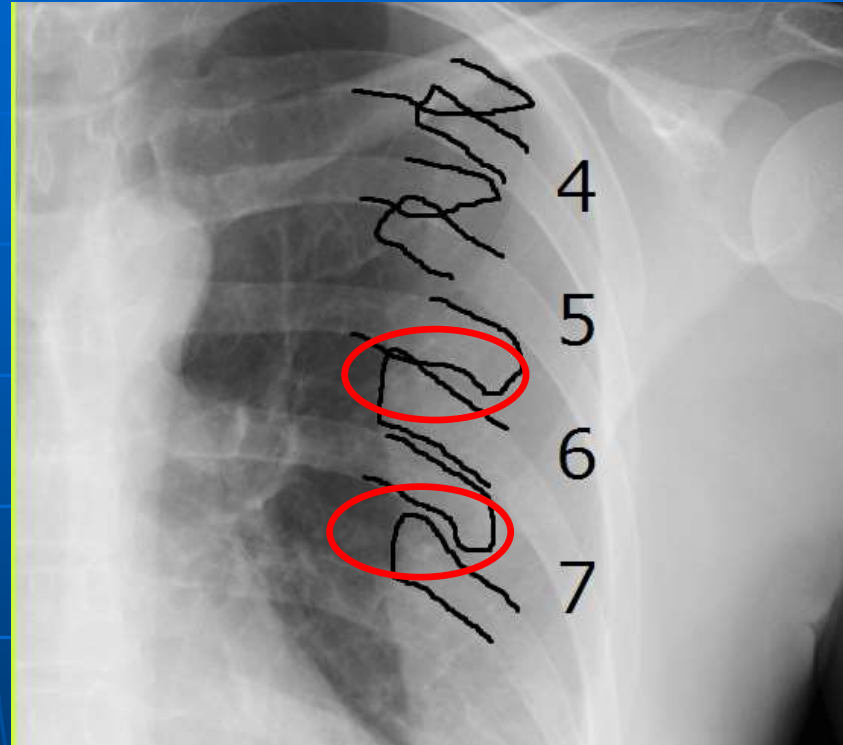
- 現病歴：骨折に関しては、保存的管理とされ、積極的な治療を受けらず7月23日に退院する。  
7月25日に胸腔ドレーン痕の抜糸を行った後、当院を受診する。

# X線所見(受傷直後)



受傷直後は、軽度の短縮転位及び側方転位がみられるも、骨折端は嚙合している。

# X線所見 {退院時(受傷10日目)}



退院時は、短縮転位及び側方転位が顕著にみられ、骨折端が大きく離れている。

# 徒手整復法

- 提携先整形外科医と詳細に検討を行った上で徒手整復術を施行した。
- 患者を右側臥位とする。下位肋骨より順番に、末梢骨片を中枢骨片に近付けるように整復する。

# 固定法

- 整復位保持と再転位防止を目的として、肋間及び肩甲骨下角に綿花枕子、生ゴムを当て、キネシオテープ及びホワイトテープで固定を行う。
- 患部の保護を目的として厚紙副子、晒で固定を行う。
- 肋骨短縮転位防止を目的として、晒及びクラビクルバンドで固定を行う。



# 徒手整復法・固定法写真



徒手整復法  
第9肋骨より、整復→綿花枕子を  
当てる→一つ上の肋骨を整復  
を繰り返す。

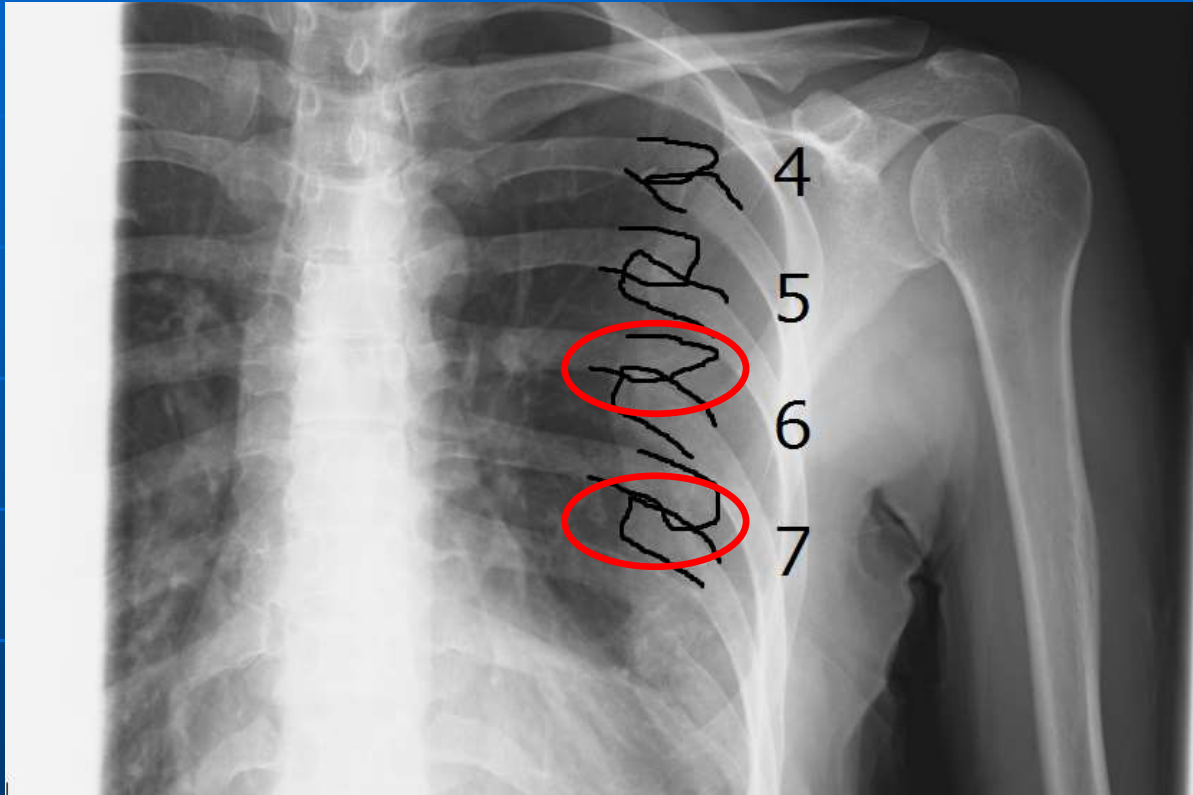


固定法  
この後、厚紙、晒及びク  
ラビクルバンドで固定を  
行う。

# 結果

- 初診(受傷後12日目、以下受傷後日数): 徒手整復術及び固定後にX線撮影を行う。骨折端が近付いたことを確認する。肩甲骨骨折は、肋骨骨折整復中に整復された。

# X線所見 { 整復後(受傷12日目) }



退院時(受傷10日目)と比べて骨折端が近付いたことが確認出来る。

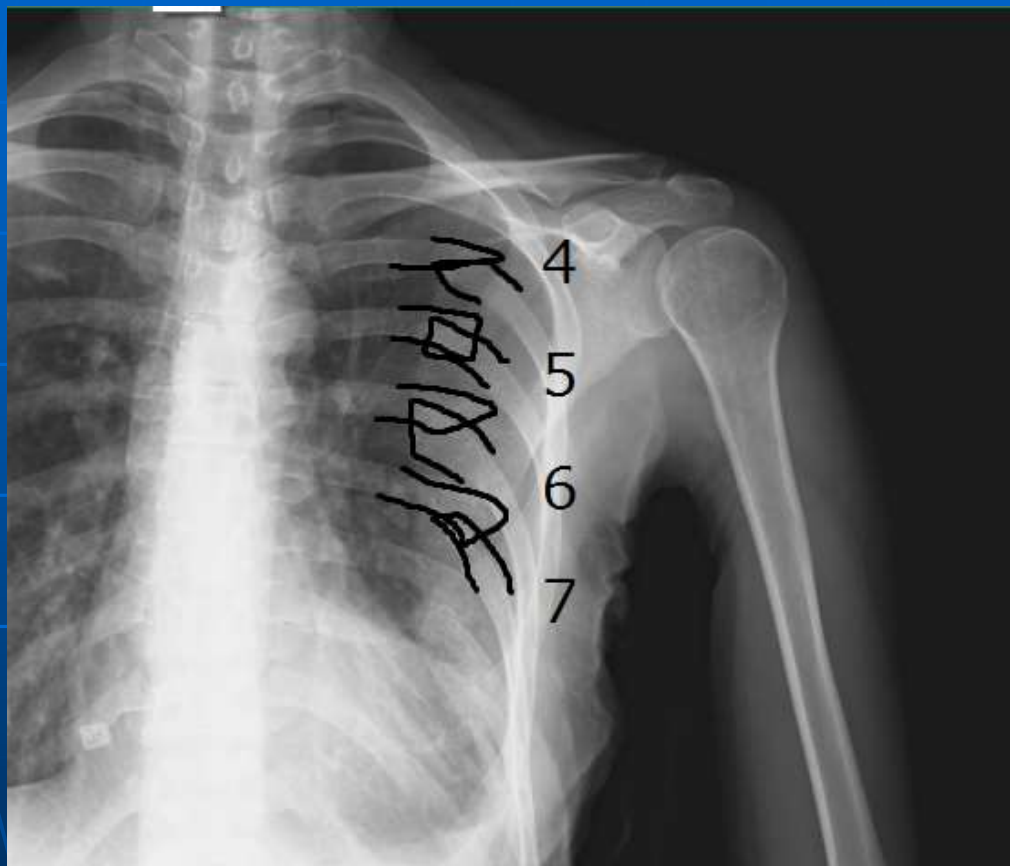
## 結果2

- 14日目(2診目):固定の確認を行う。特に問題なく、安静指導を行う。
- 26日目(3診目):睡眠が楽になっている。電療法開始する。晒交換を行う。
- 43日目:骨癒合が順調に認められ、少しずつ運動療法を開始する。
- 50日目:徐々に動作が楽になる。家事を始める。

# 結果3

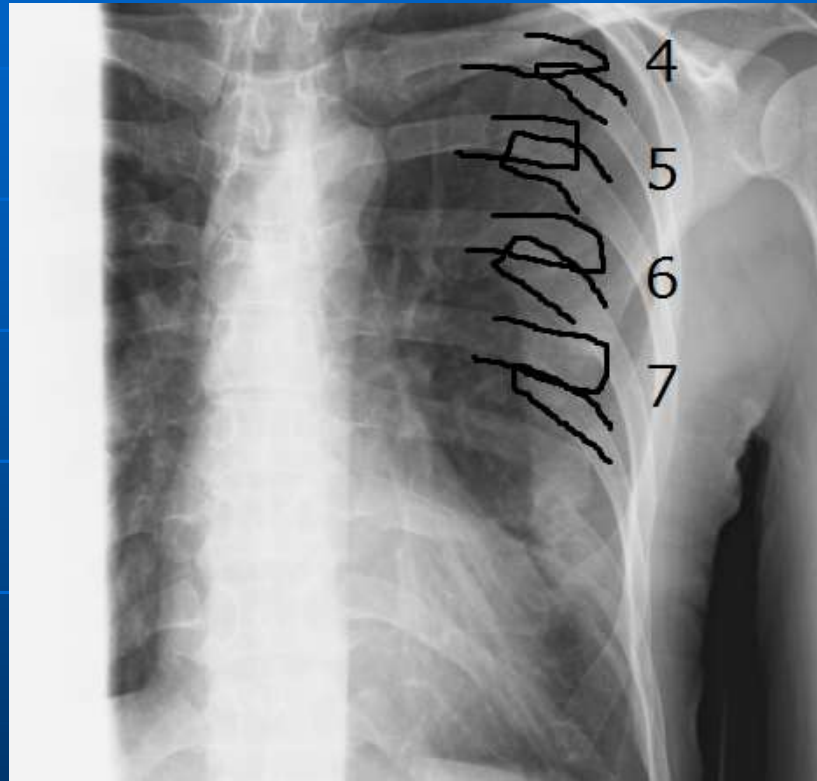
- 57日目:テーピングを除去。固定は、晒、厚紙、リブバンド及び三角巾とする。肩甲骨の短縮転位を認める(1cm)。
- 80日目:動作時痛なくなる。
- 87日目:受傷前に行っていたヨーガを再開。
- 107日目:晒及び厚紙副子を除去。固定は、リブバンドのみとする。
- 135日目:X線の結果、骨癒合が認められ、治癒に至る。

# X線(整復後14日目)



整復位を保持出来ている。

# X線（整復後135日目）



整復位を保持したまま骨癒合に至る。

# 考察

- 受傷直後は大きな転位を認めなかったが、退院時(10日目)には大きく転位していた。
- 徒手整復術を行う事により、骨折端を近づけることが出来た。
- 我々は3年前の学会で、仙骨骨折において骨折端を近づけることで、治癒が促進される可能性を報告した。
- 本症例も、徒手整復術を行う事で良い治療結果が得られる事が示唆された。



## 考察2

- 多発肋骨骨折は、リスクが大きいいため慎重な対応が要求される。
- 今回、提携先整形外科と詳細に検討を行ったこと、整復直後にレントゲン撮影および検討を行ったことが、リスク回避に大きく寄与したと考えられる。
- 適切な判断を前提に徒手整復術を行う事で、保存療法にて良好な結果が得られたと示唆される。

# 考察3

- 多発骨折に対する徒手整復術を検討した報告は少ない。
- 本学会において、過去に行われた多発骨折に関する発表は**18演題**である。
- 骨折数の内訳は、**5本(1演題)**、**3本(1演題)**、**2本(16演題)**である。
- 今回、肋骨6本と肩甲骨合計7本の多発骨折に対する報告を行った。

# 考察4

- 多発肋骨骨折に関する論文は、19本存在する(和文)。
- その内、徒手整復術に関する研究は存在しない。
- また、合併症に関する研究がほとんどであり、肋骨骨折の治癒日数に関する検討はされていない。
- 今後症例数が増えることで、徒手整復術の有用性を検討することが可能となる。

# 結語

- 今回、肋骨6本と肩甲骨の多発骨折に対する徒手整復術を行い、良好な結果が得られた。
- 適切な判断を前提に徒手整復術を行う事で、保存療法にて良好な結果が得られたと示唆された。
- 今後症例数が増えることで、多発骨折に対する徒手整復術の有用性を検討することが可能となる。